人類学民族学博物館（MAE）の作品デジタル映像については未公開

MAE No 677-30. A View of Kiyomizu-dera, paing on silk, in passe-partout

1. MAE No 831-1. Stone Phallus
2. MAE No 831-2. Nyogogashima-emaki Scroll
3. MAE No 831-3/1-6. Six lists of "Drawings of sexual Grotesques"
4. MAE No 831-5/1. Stone Phallus
5. MAE No 831-5/2. Stone Kteis
6. MAE No 831-6/1. Inari Fox Figurine
7. MAE No 831-6/2. Inari Fox Figurine
8. MAE No 831-7/1,2. A Set of 2 Fertility Cult Stones

3　ロシアにおける日本説話の翻訳と研究の概要

ディアナ・キクナゼ

本論文の目的はロシアにおける日本の説話文学の翻訳と研究の歴史を概述することである。ソビエト日本学の第一歩が踏み出されたのは、ようやく一九七〇年代に入ってからである。一方欧州においてはその時代にはすでに説話物語集の全訳、あるいは抄訳が出版され、研究が進められていたのである。本稿では、ソビエト時代および現代のロシア人日本学者による説話文学の研究、翻訳、ならびに普及にあたって最も重要な出来事を年代順に記していく。

説話文学はソビエトでは独自の方法で始まった。ロシア人の日本研究はかなり遅くなってから、ようやく一九七〇年代になってからである。それ以前は、このジャンルの最大の研究は文学評論で語られていたが、それもごく断片的なものであった。この時代を通してソビエトの日本研究で主要な焦点があてられていたのは日本の古典の翻訳であった。日本の古典の研究が活発に行われるようになったのは、二〇世紀の一〇～二〇年代に、ソビエトで日本と東洋の研究を包括的に行うに当たり、そのギャップを埋めることが必要になった時代のことである。それ以前はロシア人の読者が日本のことを知ったのは旅行日記、おとぎ話の翻訳、日本文化の歴史や文化のエッセイを通じてであった。かつて西洋で人々を虜にした日本文化・いわゆるジャポニズムを背景に、現在、ロシア人読者は積極的に日本文学に関心を寄せ、精通するようになった。この期間を通じて、古典文献の断片的な翻訳が進められたが、これは日本の文学的な遺産に広く馴染むために必要なことであった。最初に、翻訳者が当然のこととして関心を抱いたのは『古事記』、『伊勢物語』、『竹取物語』などであった。詩は翻訳及び出版業界では特別な地位を築き、詩集や詩集に関するエッセ